

トウ・ン・テツ・ヨン
映画『湯徳章—私は誰なのか—』
ホァン・ミン・チェン
黄銘正監督トークイベント
湯徳章の物語を通して
次世代に伝えたいメッセージ

日時 4月18日(土) 14:00~16:00

場所 北海道大学学術交流会館小講堂
(北大正門から入ってすぐ左側。札幌市北区北8条西5丁目)

司会 許仁碩(北海道大学 大学院メディア・コミュニケーション研究院准教授)

主催 北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院附属
東アジアメディア研究センター

*参加費無料 *通訳あり *映画を事前に観ることができなかった方のご来場もお待ちしております

ホァン・ミン・チェン
映画監督 黄銘正(Ming-cheng HUANG)

監督・脚本家。初の短編映画『野麻雀(英題: Too Young)』で1997年金馬奨「最優秀創作短編映画賞」を受賞。1998年、フランス・パリのシテ・インターナショナル・デ・ザールにてレジデンスアーティストを務める。2000年、短編映画『城市飛行』が台北映画祭グランプリ(百万元大賞)を受賞した。長編劇映画には『第三個願望(英題: The Third Wish)』(2012)、『傻瓜向錢衝(英題: Two Idiots)』(2016)があり、『傻瓜向錢衝』は台北映画祭最優秀長編劇映画賞にノミネート。ドキュメンタリー映画『湾生回家』(2015)は第52回金馬奨最優秀ドキュメンタリー賞にノミネートされ、2016年大阪アジア映画祭のオープニング作品に選出。同映画祭で観客賞を受賞した。



前日(4月17日〔金〕)にシアターキノにて作品上映と監督の舞台挨拶があります!

17:40~19:15 上映

19:15~19:50 ホァン・ミン・チェン監督 舞台挨拶

19:50~20:10 ロビーにてサイン会(パンフレットご購入の方向け)

協力:北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院附属東アジアメディア研究センター

映画『湯徳章—私は誰なのか—』

監督・撮影 | 連楨恵(リェン・チェンファイ) プロデューサー | 連楨恵(リェン・チェンファイ)

出演 | 鄭有傑(チェン・ユウチェー)

企画・製作 | 角子影音製作有限公司 配給/国際版權 | 希望影視行銷股份有限公司

助成機関 | 文化部影視及流行音楽産業局 台南市政府文化局

監修協力 | 栖来ひかり 日本語字幕 | 加藤浩志 後援 | 台北駐日経済文化代表処 台湾文化センター

配給・宣伝 | 太秦 原題 | 尋找湯徳章 【2024 | 台湾 | DCP | 93分】

公式サイト | thngtek-chiong.com Facebook | thngtekchiong X | @thngtek_chiong

© 2024角子影音製作有限公司 映倫 区分:G 番号:60949

*作品の詳細は裏面をご覧ください



混ざりあうアイデンティティを求めて—— 湯徳章とは誰なのかという問いから始まる、台湾の記憶をたどる旅。

物語

1947年3月13日、今では整備されたロータリーの中心にある公園で一人の男が処刑された。彼が生まれたのは1907年、台湾が日本の植民地であった頃。先住者と日本からの移住者との間に発生する摩擦のなかで、「台湾人」というアイデンティティが形成された時代でもあった。日本の敗戦後、ほどなくして台湾は中華民国政府の統治下に置かれるが、国民党政権の抑圧や腐敗に、台湾の民衆は不満と怒りを募らせていく。その衝突をきっかけに「二二八事件」が起こり、以降、長きにわたる言論弾圧や戒厳令が敷かれる。事件にまつわる人や物事を語ることは禁じられ、台湾の記憶の奥に静かに封じられていった。台南には、湯徳章の名を冠した旧居や道路が残されているが、多くの台湾人、さらには台南の地元住民でさえ、彼の人物像を知る者は少ない。映画は彼の足跡をたどる旅に観客を導いていく。息子(養子)や姪、果物屋の店主、ジャーナリスト、歴史家、作家、当時の新聞記事…。彼と関わりのあった人々の証言や記録を紐解きながら湯徳章の人物像、そして彼が歩んだ人生の輪郭を少しずつ浮かび上がらせていく。台湾の未来を切り開こうとしながらも、その志を果たす前に命を奪われた彼の想いとは——。これは、湯徳章のアイデンティティを探求する物語だけではない、台湾の記憶をたどる物語。

湯徳章 (トゥン・テッチョン)

1907年、日本人の父と台湾人の母のもとに生まれた。警察官として社会に身を置くが、その後、日本にわたって司法を学び弁護士資格を取得。台南に戻り、弁護士として人々のため尽力した。1947年、二二八事件が勃発し、湯徳章は身を挺して混乱の収拾に尽力し多くの市民を守ったが、軍に逮捕され拷問を受け、町中を引き回されたうえで台南市の中心部にある民生緑園(現・湯徳章記念公園)で公開処刑された。40歳という若さであった。

解説

台湾で生まれ育った日本人たちの望郷の想いを記録したドキュメンタリー映画『湾生回家』の黄銘正(ホアン・ミンチェン)監督が、連楨恵(リェン・チェンフイ)とともに、共同監督として5年の歳月をかけて制作した最新作。日本統治下そして国民党による一党独裁体制——。台湾人のアイデンティティと向き合い、激動の時代を生き抜いた一人の男・湯徳章とはどういう人なのかという問いから、映画の物語は動き出す。現地にて綿密な取材を積み重ね、湯徳章を知る主要人物たちへ接していく過程を映画に取り入れることで、歴史上の人物と現実の生活を自然に結びつけ、日常感溢れるユーモアに満ちた作風に仕上がっている。一般的な歴史ドキュメンタリーの固定概念を覆すと同時に、湯徳章の人柄、生涯を時代の変化とともに、発見していくような構成で描き出した。また、当時を再現するシーンでは、監督であり俳優としても活躍する鄭有傑(チェン・ユウチャー)が湯徳章を演じた。歴史の狭間に埋もれ忘れ去られかけた人物を自然に体現し、湯徳章の人物像の解釈をより深めていく。湯徳章を演じる過程で、鄭有傑自身もまた、台湾と日本の狭間に生きる一人の人間として、自らの

ルーツと向き合う時間を過ごしたという。その思いは作品の中でも静かに語られ、湯徳章の生きた時代と、今を生きる私たちの姿が重なり合う。時代を超え、台湾の近代史、そしてその土地とそこで生きる人々の温かな繋がりを見つめる映画が2月28日、日本で公開される。



thngtek-chiong.com

2026年4月17日(金) 17:40からシアターキノにて上映!

シアターキノ ▶ 札幌市中央区南3条西6丁目南3条グランドビル2F